

HUGコミ

第7号
2008年4月

こどもパートナーズ(東村山市秋津町) / FAX: 042-397-1024 / E-Mail hug-partners@jcom.home.ne.jp / URL http://

HUGこどもパートナーズの活動紹介・その7

NEW
オープン!

HUGサロンのほら ～外遊びサロン～

外遊びサロン? 北山公園で何するの? 砂場も滑り台もないの?? ...ご心配なく。子どもって好奇心の か・た・ま・り!!! 石ころ一個だって、遊べるんですよ。高さ1mの小さな山も、子どもにとっては背丈を超える大冒険なんです。もちろん、どろんこにもなることも。同じ土でも、ぬるぬる～、さらさら～、どろどろ～...と、感触もいろいろ。そんな時の子どもの瞳を見てください。キラッキラしてますよ～!

歩き出した子どもたち。家の中では、イタズラばかりで困っちゃう。お母さんも「ダメ」が、多くなりがちですね。天気の良い日は、一緒にお外で遊びましょう!! そして、我が子だけでなく、子どもたちみんなをたくさんのお母さんの目で見守って、育てあっていきましょう。それは、自分の子どもを違った目で見られるチャンスでもあるんです。



NEW
オープン!

恩多ひまわり広場

恩多地区待望のひろばがオープンします。小さい子どものいるママ達自身が立ち上げたひろばです。お近くの方、ぜひお気軽に参加してみてください!

- ◆第3水曜日 10:30～13:30
- ◆トミンハイム恩多町集会所 (恩多町5-40-6)
→都民住宅3棟のうち、西松屋に近い建物の右端の集会所
- ◆利用料 50円 (場所代&お茶付き)
主催：恩多ひまわり広場実行委員会
※駐車場はありません
※持参のお弁当食べられます
※連絡先 080-6624-4499 (梶)

- ◆4～6月、9～11月の毎週木曜日
- ◆10:00～12:00
- ◆北山公園 あずま屋の前集合
- ◆持ち物：水分・タオル・着替え (場合によっては替え靴も。お砂場着があると便利です)
- ◆連絡先 090-9158-0188 (奥)
※雨の場合はありません
※駐車場はありません



市議会傍聴ツアー報告

傍聴ツアー参加のママから感想が寄せられています。2008年6月議会でも企画しますので、興味のある方はお問い合わせください。



Yさん (1歳児ママ)

今回初めて東村山市の議会を傍聴させて頂き、緊張しっぱなしでした。傍聴席の幅が狭く最前列に座ったのもあり、子ども(当時1歳1ヶ月)が動き回ると下に落ちそう感じがしてちょっと怖かったです。お菓子をあげ続けるだけでは限界で、奇声をあげ、母親としては冷や汗ものでした。議長からも『いい子だから静かにしてね』と言われ、よりプレッシャー…。本当は議員同士のリアルなやり取りを見たかったのですが、仕方なく外に出てスピーカーから聞いていました。

議題の一つに、私の住んでいる地域の保育園が問題になっており、その部分になると傍聴席の皆の関心が一心に集まり、一部の議員がヒートアップしているのがわかりました。近隣市から引越してきたばかりで地域の状況がわからず、のほほん'と暮らしてきたのが一変、議会を傍聴したことによって、身近なところで深刻な問題が起きていることを知り、衝撃を受けました。自転車で近辺を走るたびに、この地域に問題の保育園があり子どもたちが預けられているのかあとと思うと、他人事とは思えなくなってしまいました。

傍聴する前とした後で、東村山市の見方が大きく変わった自分がありました。今まで受身で他人任せに生きてきた自分(前者)から、東村山市に住んでいる以上自分たちも行政に関心をもたねば! という意識的・積極的な自分(後者)に変わったのです。また、どの議員が何に関心をもっているのか名前と顔が一致しますし、次の選挙時に誰に投票すればいいのかということにも関心が持てるようになりました。というか、政治って大事じゃん! 面白いじゃん! 議員じゃなくても自分たちのことだからもっと積極的に関わっていった方がいいんじゃない?! という気持ちになってきました。

1回参加しただけなのに、なんだかとても勇気づけられた感じがしました。とくに子育て施策に関してはより私たちは当事者として訴えていかなくては! 自分たちで何とかしなくては! と切実に思うようになりました。

最後に、議会傍聴ツアーをやっているHUGさんは良いことやっているなあとつくづく関心しました。みなさんも機会があったらぜひ参加してみると良いと思いますよ～。



Fさん (0歳児ママ)

市議会の傍聴ということで、ちょっとドキドキしながら参加しました。受付を済ませ、傍聴席に行こうと思ったら、なんと急な階段が!

でも、役所の方がベビーカーを上る階に上げてくださいました。その温かい対応に感謝しつつ、でも、なぜ階段しかないのだろうか、こういった場所にもエレベーターがあればいいのにと思いました。子どもが生まれて、出かける度に感じる大変さ(道路のちょっとした段差が、やエレベーターのない駅、ベビーカーの入らないトイレなど)をここでも感じました。

さて、肝心の市議会ですが、私が傍聴したときの議題は、ゴミの件と保育園の件でした。ごみ見聞録(市報と一緒に配布される環境PR紙)で「4月から一般廃棄物処理手数料が改正されます(要するに値上がりする)」ということを読んで、「そうなのか」ぐらいにしか思っていなかったのですが、傍聴してみて、本当に必要なことかどうか、市民がもっと関心をもつことが大切だと思いました。保育園の件も切実な問題なので、市として、もっと改善して欲しいと願うばかりです。それにしても、野次を飛ばす議員の方がいて、正直、品位を疑いました。市民の代表なのですから、もっと自覚をもった言動をしてほしいものです。

今回、子連れでの傍聴が多かったということで、議員の方々も意識されていたようです。一人でも多くの方が市政に関心をもつことが、よりよい市政のために必要不可欠だと実感しました。そして、子育てしていて、疑問に思うことや改善して欲しいことを周りの人と話題にする、小さな一歩が大切だと思いました。



Cさん (0歳児ママ)

初めて傍聴しましたが、5階からの階段を市の職員の人がベビーカーを運んでくれて、冷たい対応かと思っていたら、意外とやさしくてうれしかったです。

傍聴中も歓迎ムードで、帰る時も「また、どうぞ。」と声をかけてもらいました。子どもが泣いたりして聞いてられないと思ったら、静かにしていてくれて助かったし、来るまでは、敷居が高いと思っていた市議会も、意外に気楽に傍聴できてよかったです。



「市議会」なんて、遠い世界のようにですが、実は私たちの生活のことを話している場です。子育てしていて「これは何とかならないかしら」なんて思ったこと、ありませんか? HUGは「まちづくり」の視点も大事にしています。住み良いまちを、市民が市政に関心を持っていくことから作られていくと考え、子育て中の方が気軽に傍聴できるようツアーを企画しています。ぜひ一度ご参加を!

東村山市子どもまつり

5月11日(日) 10:00～15:00
萩山小学校
・焼き菓子 (クッキー・ケーキ)
・子どもくじ
で参加します!

雑記報 NPO法人HUGこどもパートナーズ5月にも総会を行い3期目を迎えます。2008年度会員も募集しています。応援会員は年間1000円、賛助会員は年間3000円。2007年度は助成事業を進めながら、初めての受託事業に邁進した年でした。2008年度早々2カ所の親子サロンがオープン。「外遊びサロンのほら」と「恩多ひまわり広場」のほら「は子ども成長には野外での遊びが大切であり、思いっきりどろんこになって遊んでほしいという願いからできたサロンです。身近にあるすばらしい自然のなかで、仲間と一緒に遊びましょう!」恩多ひまわり広場「は、乳幼児を抱えた現役ママ達主催のひろば。自分達で居場所を作ろうと立ち上がったママ達に拍手!! 広報などの面でHUGも応援していきたいと思えます。地域のみなさんよろしく願います。」「のぐちちよう子育てひろば」では、ひろばを利用してマダマ達と商店街のマップ作り挑戦します。子育てばかりの毎日、たまには子どもを預けて、まちのことを知る良い機会になると思えます。商店街の人達との交流も楽しみ。マップが商店街活性化に少しでも役立てばうれしいです。また、ひろばの愛称も募集します。呼びやすく親しみやすいアイデアをお寄せください。投票などで決定する予定です。■毎月の定例会はコミニティスペースより行っています。よるべでも新しい事業が始まります。こちらにもすてきな私たちの居場所。HUGコミ次号は夏発行の予定です。

のぐちちょう子育てひろば

2007年度活動報告

昨年10月にオープンした「のぐちちょう子育てひろば」は、おかげ様で0歳1歳の子どもを中心に地域の親子の居場所として多くの方に利用していただいています。毎月平均700人の利用があり約350組の親子が訪れていることになりました。毎日のように利用する人、遠くからわざわざ足を運んでくれる方、イベントを楽しみにしている方など利用の仕方は様々です。ひろばでは、ベビーサロンやパパサロン、おしゃべり会など様々な企画も開催しています。

以下は2007年度活動内容の一部です。

【パパサロン】
パパとあそぼう
うどん作り
楽器と歌のコンサート

【ママスタディ】
手遊び
親子で絵本を楽しみましょう
バルーンを作ろう
やさいスタンプ
わらべうた
ママヨガ
ベビーマッサージ
食育講座・1歳から大切な幼児食
シャカシャカバターを作ろう
ひなまつり
子どものヘアカット

※その他、「テーマ別おしゃべり会」(ごはんの悩み・トイレトレーニング・離乳・卒乳・おもちゃの取り合い・夜泣き・利用者懇談会)、フリマなども行いました。



のぐちちょう子育てひろば商店街活性化企画 「野口町商店街マップ作り」講座 参加者募集のお知らせ

まちづくりはまずそのまちを知ることから……商店街にはどんなお店があるのかな？ 保育付き講座で「マップ作り」をしてみませんか？ 各商店を調べに行ったり、お店にニーズを伝えたり。できあがったマップは、商店街活性化に役立てていく予定です。

【日程】5/30(金)・6/6(金)・6/20(金)・7/1(火)・7/11(金)・7/18(金)の全6回
【時間】毎回 午前10～12時
【対象】のぐちちょう子育てひろばを利用している親子 6組
【保育】子ども1人につき1回300円
【場所】東村山ボランティアセンター(野口町)及び商店街
【申込】のぐちちょう子育てひろば(直接または電話393-4181まで)

東村山市社会福祉協議会地域福祉活動助成事業

のぐちちょう子育てひろば 愛称募集中!!(5月中)

中国版職業占いと産褥ヘルパー!?

「のぐちちょう子育てひろば」4月のママスタディ「中国の子育て」の話がとてもよかったので、紹介します。

講師は山東省出身の張元(ちょう・げん)さん、いつもひろばを利用している0歳児のママです。張さんは日本に住んで9年。堪能な日本語で、中国では夫婦別姓が多く子どもと名字が違うとか、赤ちゃんが誕生すると赤く染めたゆで卵を親戚や友人に配るとか、興味深い話をたくさんしてくれました。ほとんどの家が共働きでママも産後三か月で仕事に復帰するそうですが、幼稚園・保育園の区別はなく、二歳から入れ、それまでは家族がみるかベビーシッターを雇うそうです。また、1歳の誕生日には皆でお祝いをし、将来の職業占いをします。赤ちゃんの前にその職業を象徴するような物を置き、たとえばそろばんなら将来はエンジニアや科学系、筆なら記者や作家、肉なら飲食業、サービス業など、赤ちゃんがどれを取って来たかで将来の職業を占うのだそうです。とてもユニークですね。

そして日本のママ達が一番興味をもったのは、産後1か月を「坐月子(ズオユエズ)」といい、産婦の体の回復にとっても大切な時期とされ、「月嫂(ユエソウ)」という産後のケアをしてくれる人が1か月泊まり込みで来てくれるという話です。「月嫂」は職業であり、レベルなどにより賃金も違うそうですが、ほとんどの人が1か月分の賃金を各家庭で払って雇うそうです。人気が高く半年前から予約するケー

スもあるとか。おもしろいのは、赤ちゃんの世話、お母さんの指導、母乳が出るための食事作りなど、母子のためのことは何でもやってくれますが、掃除や家族の食事作り等は一切やらないそうです。また、中国では、トイレトレーニングがとても早く、首がすわってすぐ始めるとか。股のところが割れている子ども用のズボン是有名ですが、知らないママも多く、本物を見てみんなびっくりしていました。おばあちゃんなど家族の人手が多いので、みんな世話ができるそうです。

一人っ子政策で子どもが少ないので早期教育に関心が高いとか、「尻割れズボン」などの古い風習がなくなりつつあるとか、中国の子育て事情も変革されているようです。

最近中国と言えば餃子事件や北京オリンピックの聖火リレーなど、マイナスイメージの報道が多いですが、こうしてほんわか聞く張さんの中国の子育ての話は、違いを感じながらも、親としての気持ちは私たちの日常に通じるものばかりで、このような草の根の交流が国と国の関係を良くする上でもとても大切だと感じるひとときでした。

ま・ち・こ・ら・む・4

わたしたちの住むまちは…

北海道から沖縄へ そして、東村山

富士見町 松岡 桂

私たち家族が東村山市に越してきたのは四年前。それまでの四年間は、米軍普天間基地のある沖縄県宜野湾市で過ごしました。

夫婦ともに北海道で生まれ育ち、結婚してすぐ上京しましたが、二三年後の沖縄転勤と、さらにその二三年後には再び転勤することが決まっていたので、どちらも仮住まいという感覚でした。

東京で長男を出産し、十か月くらいの際に沖縄に越しましたが、気候や風景、文化、歴史、食べ物、動植物など、何もかも北国とは大

違いで、カルチャーショックの連続。まるで異国に来たかのように、なかなか観光客気分が抜けなかったことを思い出します。東京ではじめての子育ては、何をすることも緊張していましたが、島の温暖な気候やゆったり流れる時間のなかで過ごすうち、不安が和らいでいきました。電車がなにかわりに車さえあればどこへでも行けて、子どもの世話もたいへいは車内で済ませることができたし、子連れの人への配慮がゆき届いている場が多かったことで、都会で外出時に感じるようなストレスがほとんどなかったのです。

自治体の子育て支援も手厚く、児童館や保育園などの施設では専任のスタッフによってさまざまなプログラムが用意されていて、無料で利用できるもので、毎日どこへ行こうか迷うほどでした。

沖縄では子どもは三人が普通でしたが、それも納得。ここでなら自分でも三人くらい育てられそうな気がしてくるのでした。子ども

や子育て中の自分が周囲から大事にされていると感じる機会に恵まれて、自信がついていたのかも少しありません。

沖縄で三つ違いの長女も生まれ、しばらくして市の育児情報誌の改訂版発行のお手伝いに、転入時からの「恩返し」のつもりで参加。子連れでの取材・編集作業の大変さを思い知るにつれ、先輩ママたちの苦労や熱意が理解でき、よりよいものになりたいという気持ちを一層強くしました。

一方、地域のことを調べていくうちに沖縄の別の面にも触れることになりました。とくに気になったのは「アメラジアン(★)」と呼ばれる子どもたちと、彼らのために尽力する人たちの存在でした。

これらのことを知れば、当然「基地さえなければ」と思います。けれど、沖縄の若者にとつて基地は公務員同様、安定した就職先であり、予備校まであるし、軍用地主など基地から生活の糧を得ている人も多いのです。狭い島内では、

さまざまなしがらみから思っていることをはっきりとは言えず、そういう背景が人々をより一層穏やかに見せているのだということもわかりました。

複雑な思いを持って余しているうちに再び転勤が決まり、沖縄を離れた数日後、沖縄国際大学での米軍ヘリ墜落事故が起きました。そこは私たちが住んでいた所から車で数分、子どもの幼稚園のすぐ近くで、園バスのルート沿いの場所だったのです。ショックと同時に、やっぱり親であるからには、子どもの未来のためにならないこと思うことには、はっきりと意思表示すべきだと確信しました。

子どもたちがおとなになつて、ふるさとを思うとき、悲しい気持ちにならないように。

★「アメラジアン」アメリカ人とアジア人の両親を持つ人々。この場合はとくに子どもたち。広大な米軍基地を抱える沖縄には、米軍人や軍属と地元女性との間に生まれた国際児が多い。差別や偏見のため、地域社会に溶け込めずにいる子どもも多く、宜野湾市ではアメラジアンをもつ母親たちが無認可のフリースクールを開校。二つの言語文化を大切に育てていく「ダブル教育」を掲げている。